

平成16年8月4日

文化庁「日本語教育大会」
日本語教育研究協議会 第2分科会
「地域の日本語学習支援の方法—施策の展開—」

担当講師：松本 茂

この分科会では、地域日本語教育活動の充実方策に関する調査研究協力者会議（座長：松本茂）の報告書として発刊されたばかりの『地域日本語学習支援の充実—共に育む地域社会の構築へ向けて』（文化庁編，国立印刷局）を参考資料として活用しながら，地域の日本語学習支援の基盤となる理念（考え方）や具体的な取組事例・方法などについて紹介するとともに，今後の在り方について協議します。

なお当日は，目次の太字のところをはじめとして，できる限り，実際の執筆者が，執筆意図や内容の報告・説明を行うとともに，質疑応答も行う予定です。

はじめに（松本茂）

地域日本語教育活動の充実方策に関する調査研究協力者会議の設立経緯と発刊の意義

- I なぜ今地域で日本語学習支援が必要なのか
—地域における日本語学習支援活動の歩みと現状—（野山広）
 - ・集住地域の実態と日本語学習支援活動の現場紹介
（当日は，写真，ビデオなども紹介する予定）

- II 地域在住外国人が抱えている様々な問題
—多文化共生社会構築へ向けての基盤作り—
 1. 共生社会で想定される共通の課題
 2. 親子間のコミュニケーションを支える言葉や文化
 3. 年少者に対する学習支援の重要性（春原直美・熊谷晃）
 4. 人間関係の構築の重要性（杉澤経子）
 5. 多文化共生社会を支える考え方の理解促進
 - (1) 多文化教育・異文化間教育（野山広）
チーム・ティーチング（T・T）方式：山形市の事例紹介（高橋浩三）
 - (2) 開発教育（比較文化：柔軟性・寛容性の教育）・国際理解教育
参加型学習の展開：武蔵野市の事例（杉澤経子）
 - (3) 生涯学習という視点からの日本語学習（野山広）

- III 地域における日本語学習支援活動の充実へ向けての方策
—文化庁「地域日本語教育推進事業」の報告書から—
 1. ネットワークの構築（米勢治子）
 2. リソース（人材・情報資源）センターの設置（米勢治子，春原直美・熊谷晃）
 3. コーディネータの配置（杉澤経子）
 4. 日本語学習者と支援者を支える環境の整備
 5. 地域の状況に応じた日本語学習支援の取組：各地域の事例

- IV 日本語学習支援活動の実践へ向けて
 1. 言語教育としての日本語学習支援活動（松本茂）
 2. 地域の状況や学習需要に応じた支援方法
—地域日本語プログラム作りと運営のノウハウ—（伊東祐郎）
 3. マンツーマン方式の特徴
 4. クラス方式の特徴
 5. 併用方式の特徴
 6. 実践へ向けて